

日本三大八幡宮 大社 箱崎宮

筥崎宮は、宇佐・石清水八幡宮と共に日本三大八幡宮の一つで、第15代神天皇を主祭神として神功皇后(応神天皇御生母)と玉依姫が祀られています。



1 一の鳥居と楼門

境内には戦国時代末の天正15年(1587年)に豊臣秀吉が千利休を招き茶会を開いた際、千利休が寄進したと伝えられる石灯籠が現存し、元寇で蒙古軍船のイカリに使用された碇石も展示されています。また、厄除け開運・家内安全の神「八幡さま」として全国より多くの参拝者が訪れています。



2 本殿



3 恵光院 燈籠堂

天正15年(1587年)6月、千利休はこの堂の前で豊臣秀吉を招き、博多の豪商神屋宗湛や島井宗室らとともに茶会を開いた。この堂は筥崎宮境内にあったが、明治期の神仏分離により恵光院に移された。



約500年前に始まると伝えられています。玉洗いの儀式のあと、玉取恵比須神社に運ばれた雄玉は、待ち受けた子供たちによって、競り合いが始まります。途中から大人の男衆に引き継がれ、楼門までの激しい競り合いが繰り広げられます。玉せせりの名で、広く市民に親しまれています。



歩いて、あかもまち発見

福岡

HAKOZAKI



筥崎宮の歴史と商店街の人情に触れる街

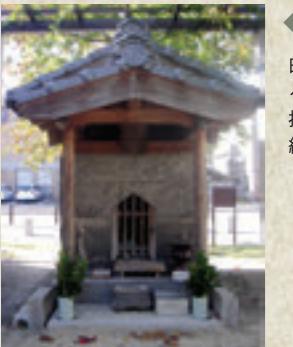


かつて、筥崎人の身近な足といえは、昔はほとんどが西鉄の路面電車・いわゆる「電車」でした。昭和54年2月に全面廃線となりましたが、その頃の「九大」は、唐突に途切れられたレールの手前で、着いた電車がそのまま折り返すという、なんども素朴な風景でした。

かつて、筥崎の人の身近な足といえは、昔はほとんどが西鉄の路面電車・いわゆる「電車」でした。昭和54年2月に全面廃線となりましたが、その頃の「九大」は、唐突に途切れられたレールの手前で、着いた電車がそのまま折り返すという、なんども素朴な風景でした。

10 花庭園

筥崎宮の神苑(神社の庭園)。四季折々にボタンやシャクヤク、ユリなどいつの時期に来訪しても楽しめる庭園です。



5 田之地藏尊

田畠の豊作と子供の守護尊として、地域の人々から崇拝され、毎年春季には勝楽寺住職を招き読経、町内信者が集まって、お籠り祭典を継承し、信仰を深めます。



7 米一丸地藏尊

文治年間(1185~1189年)、京の一条殿が家来筋の米一丸の美しい妻に横恋慕して、米一丸を計略にかけた。米一丸は博多に下つて一条殿の命令を遂行しようとしながら、夜討にあい、この地まで逃れ、力つきで自決した。米一丸の怨を供養するためにこの塔が立てられた。



8 天満宮と鯨塚

かつてこの沖合に体長13mの鯨を発見し、筥崎浦網屋の漁師が縄がかりで捕獲。それで浦中がうるおったため、その鯨の供養と感謝の意をこめて背骨の一部を葬り、鯨塚を作り、この碑を建立した。

9 九大の正門

九州大学の正門であるレトロな門。



10 花庭園

筥崎宮の神苑(神社の庭園)。四季折々にボタンやシャクヤク、ユリなどいつの時期に来訪しても楽しめる庭園です。



箱崎いまむかし

昭和50年ごろの筥崎宮参道
(写真提供/西日本鉄道株式会社 広報室)



協力/筥崎宮、箱崎商店連合会、箱崎校区自治協議会、箱崎公民館、箱崎伝統文化保存会、福岡市東区役所総務部企画課、福岡市経済振興局産業振興部振興課

東区版 2009年3月発行

箱崎の四季



玉取祭（玉せせり）
一月三日

玉取祭は、俗に「玉せせり」といい、全国に知られる奇祭。玉洗式で洗い清められた陰陽の2つの玉は、末社玉取恵比須神社に運ばれます。祭典の後、陽玉は、競り子たちに手渡され、玉せせりが始まります。玉に触れると悪事災難をのがれ、幸運を授かるといわれ、裸の競り子たちは、勢い水を浴び、体から湯気を立て激しい争奪戦を繰り広げながら本宮へ向かいます。やがて桜門下に待つ神職に手渡され、陰陽の2つの玉は再び揃って神前に納まり、祭りが終わります。



人形飾り
七月二十三日・二十四日

7月23日・24日のお地蔵様の縁日に行われる、子供たちの無病息災を祈って行われる風習。箱崎の各家々の玄関先に、博多人形の捻り人形やお地蔵さまの石を飾って箱庭を作り、子供たちが線香を持って地蔵堂や各家庭の人形飾りをまわります。



夏越祭
七月の最終日曜とその前日

神代の昔、イザナギの神がなされた禊祓に起源する祭事。楼門前に据えた「茅の輪」をくぐり「人形(ひとがた)」に罪穢れを託し、「千度祓」をうけると災難や病から逃れ、健康に恵まれると伝えられています。



放生会大祭
九月十二日～十八日

どんなく、山笠と並ぶ博多三大祭りに数えられ、本宮では千年以上前から続く最も重要な祭典です。生きとし生けるものの生命を慈しみ守られる八幡大神の御心にこたえるとともに、実りの秋を迎えて海山の幸に感謝を捧げる祭りで、参道一帯には700もの露店が立ち並び、百万を数える参拝者でにぎわいます。

◆至天神・博多駅



お汐井浜

土の神・農の神を祀ったことから起きたもので、箱崎宮では3月杜日(春分の日に最も近い戌(つちのえ)の日)、9月(秋分の日)早朝から、海岸の祓い清められた真砂をお汐井籠(てぼ)に取りに詣る。

START



高灯籠

文化14年(1817年)、箱崎浜の漁師が帰船の目印として築造。当時は燈籠の足もとに海岸線があり、明かりは遠くまでよく見えたという。

WC

ナースプラザ

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●